

# MY WAY English Communication I・II・III の編集方針

I・IIは「基礎・基本」、IIIは「応用・発展」  
— I・II・IIIに通底する豊富な題材内容 —



桜美林大学 森住 衛

## はじめに

何事も全体が完成して初めてその全体を構成する部分の役割や意義が明確になります。新版 MY WAY English Communication I・II・III（以下、I・II・III）はこの3月のIIIの見本本の作成をもって、シリーズが完結しました。本稿ではこの全体像を紹介しますが、その特長を一言で表しますと、I・IIは基礎・基本、IIIは応用・発展という役割分担と、I・II・IIIに通底する豊富な題材内容となります。以下、この2つについて多少とも具体的に記します。

## I・IIの「基礎・基本」とIIIの「応用・発展」

英語能力の基礎や応用はいろいろな諸相で考えられますが、本稿では、前者を言語材料と言語活動で、後者をリーディングスキル、大学入試、Thinking、自己表現という点でとらえてみます。

### 1. 基礎・基本 [1] … 言語材料：語彙と文法

MY WAYは、英語の言語材料の基礎・基本を語彙と文法にしています（ここでいう文法とは広義で文構造を含みます）。古今東西言われてきていますように、「語学はやはり語彙と文法」です。この2つがしっかりと身につけていれば、コミュニケーションにも大学受験にも役立ちます。I・IIではこの2つの取り扱いを以下のように質、量ともに増やして強化しました。

#### (1) 語彙：語彙力増進のための工夫

##### ① <Words> (各課末)

語彙を増やすためのクイズ／ゲーム形式の問題をI・IIでそれぞれ10ずつ合計20の設問を配しました。

##### ② <Vocabulary Building> ①-④ (2課ごと)

Iは、品詞の区別、基本動詞の意味、接頭辞、接

尾辞の4項目を取り上げ、IIは、日本語と英語の対応、関連語、語のプロトタイプ、米語と英語の4項目を取り上げています。この種の扱いは主に学習参考書が担っていましたが、今回の学習指導要領の「自学自習的な要素を取り込む」という方針に合致させたものです。

##### ③ <基本項目一覧表> (Iの巻末付録)

Iの巻末では、基本項目一覧表と称して、名詞の複数形、代名詞の一覧、一般動詞の三人称単数現在形など9つの項目を列挙しています。その仕方も、たとえば、名詞の複数形に見られるように、基本形、応用形、不規則形と非常に丁寧な扱いをしています。

##### ④ 日常生活基本語彙と精神生活基本語彙

語彙の基本は、具象的な日常生活基本語彙だけでは済まされません。抽象概念を表す精神生活基本語彙も必要で、この点でMY WAYは、いわゆる上位校に使われる教科書にも遜色がありません。実は、これが後半で述べる題材の豊富さに連動しています。

### (2) 文法：丁寧な説明と必要な繰り返し

#### ① <Starter> (Iの冒頭)

この文法の扱いでMY WAYの特長は、Iの本課に入る前に設定した最も基本的な事項の確認です。品詞の名称の説明、自動詞・他動詞の違い、名詞句・形容詞句などの説明などこれまで看過されてきた基本事項を確認できるような認知的な指導を試みています。このような扱いは教科書では本邦初ではないかと自負しています。

#### ② <Grammar> (各セクション)

丁寧なワンポイントの説明。シロクマやペンギンのキャラクターに吹き出しで語らせている「ひと言説明」にご注目ください。平易な日本語で「簡にして要を得た」説明にしたつもりです。

#### ③ <Exercise> (各課末)

その課に出ている文法の固めです。最も一般的な出題形式です。

#### ④ <文法のまとめ> (2課ごと)

2課分の主要な復習で、スパイラル方式で文法項目の固めを行っています。

#### ⑤ <文法項目一覧表> (巻末付録)

本教科書で扱った文法項目のまとめと発展的な項目を提供しています。

### 2. 基礎・基本 [2] … 言語活動：Reading & Thinking

言語活動は、「5技能（4技能＋Thinking）」のことです。これは教科書編集に当てはめると、各課の前後にあるその課に関する練習問題や活動、あるいは課と課の間にあるSpeakingやWritingに関する活動になります。

#### (1) 5技能の概観

##### ① Listening

課末の<Comprehension>、<Let's Try>の<Starter>と<Dialog>

##### ② Speaking

各セクションの<Try>、課末の<Self Expression>、<Let's Try>の<Key Expression>と<Interaction>

##### ③ Reading

各セクションの<Q&A>と<Read Again>、各課第1セクションの<Reading Skill>、課末の<Comprehension>

##### ④ Writing

課末の<Self Expression>、<Let's Try>の<Interaction>

##### ⑤ Thinking

各課タイトルページの<Before You Read>、課末の<考えてみよう>、課末の<Self Expression>、<Let's Try>の<Interaction>

#### (2) Reading & Thinking

MY WAYはこの5技能の、教科書としてのバランスは当然とっていますが、とりわけReadingに重点を置いています。Readingは4技能の根幹に位置し、Thinkingを促進させるからです。Thinkingについては、PISA型読解力を問う問題を取り入れています。

#### (3) リーディングスキル

リーディングスキルの扱いで、MY WAYの特長

は、体系化を図っているだけでなく、網羅化・段階化も取り入れていることです。段階化では、たとえば、Iの第1課と第3課では以下のようなスキルを取り上げました。

#### ・ Reading Skill 1 [動詞と名詞]

第2段落7行目を読みながら、動詞を□で囲み、名詞に下線をつけましょう。

例：Do you say your given name first?

#### ・ Reading Skill 3 [主語と述部]

第2段落5行目を読みながら、各文の主語を□で囲み、述部に下線をつけましょう。

例：Today the number of such buildings is increasing gradually.

特に、Slower learnerへの指導には、このような網羅的および段階的な丁寧さが必要なのです。

### 3. 応用・発展 [1] … リーディングスキル

上記のように、リーディングスキルは、I・IIで極めて基本的な活動を取り上げている一方で、IIIで、パラグラフリーディング、スキミング、スキミングなどのリーディングスキルの練磨をある程度の長さの文章を使って応用・発展の活動を取り入れています。IIIのUnit 1はこの典型です。授業時数に制約がある中で基本を固めたい場合は、このUnit 1のみで十分です。

### 4. 応用・発展 [2] … センター入試方式設問

IIIが、IやIIと大きく異なる点は、Readingの活動の一環として、センター入試で使われている英文の4肢選択問題を取り入れているということです。Unit 1では、平均130語で書かれている英文を読んで3肢選択の問題を2つ出しています。これが、Unit 2になると、平均330語の英文を読んで4肢選択の問題を4つ、さらに、Unit 3では、平均600語の英文を読んで4肢選択の問題を4つ出しています。授業時数に余裕がある場合は、Unit 2およびUnit 3までやって、センター入試の実践に備えてください。

### 5. 応用・発展 [3] … Thinkingと自己表現

IIIのUnit 2および3では、IやIIの<Comprehension> <考えてみよう> <Self Expression>を受

けて、さらに応用・発展させた活動である〈Summary〉〈Thinking〉〈Your Opinion〉を設けて、基礎→応用、基本→発展の移行を図っています。

たとえば、〈Summary〉にはその課の文章のタイトルやテーマを入試センター試験の選択肢方式で選ぶ問題にしています。〈Thinking〉ではⅠやⅡのPISA型の読解力の問題をさらに進めたものにしてあります。〈Your Opinion〉もⅠ・Ⅱの〈Self Expression〉よりも自由度を高くして、モデルの英文もやや長い例にしてあります。

### Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに通底する豊富な題材内容

教科書の核になるのは本文の題材内容です。題材内容に高校生に訴えるメッセージ性がない教科書は、「魂」がないのも同然です。この理念のもとに、MY WAYシリーズでは本課本文の題材に力を注いできました。すでにⅠとⅡの完成のときに題材の概要については紹介しましたが、改めて、Ⅰ・Ⅱ、そして、Ⅲの題材をまとめて概観します。その際に、各課の題材については、多少とも説明調にしながら、分量は本稿の1行で収まるような簡潔さで、記述することにします。また、各課に付いているOptional Reading (以下、OP) の題材を中黒(・)で示します。OPは、いわば生徒の進度や状況に応じて自由に扱うという位置づけの教材で、分量を1ページに押さえてあります。

### 1. Ⅰの題材内容

- L1. 人の姓名のいろいろ：共通点と類似点
  - ・韓国、中国、フィンランド、日本の姓の由来
- L2. 日本とケニヤを結ぶ高橋尚子さんの活動
  - ・日本の日常生活とアフリカとの密接な関係
- L3. 都市生活を快適にし、エコに優しい緑の屋根
  - ・環境に負担をかけない都市：マスダール市
- L4. エリオット・アーウィットのユニークな写真
  - ・日本にもいるユニークな写真家、梅佳代さん
- L5. 世界のさまざまな文字のでき方・由来
  - ・国重友美さんの「英習字」の芸術性
- L6. ジグソーの破片で絵を認識するハトの能力
  - ・生き残るために性格を変えるジグマス
- L7. オバマ大統領：人々の心を動かすことばの力
  - ・オードリー・ヘップバーンが残したことば
- L8. 古代ギリシャの船から見つかった謎の物体

- ・コロンビアの遺跡で発掘された物体の正体
- L9. 世界中の子どもが見ているセサミストリート
  - ・世界でこんな風に呼ばれている「ドラえもん」
- L10. ノーベル賞の益川敏英氏の「のりしろ」人生
  - ・宇宙飛行士、山崎直子さんを支えた人生訓

### 2. Ⅱの題材内容

- L1. 世界のピクトグラム(絵文字)のいろいろ
  - ・英国の紋章と日本の家紋の比較
- L2. 1月1日でないアジアのさまざまなお正月
  - ・5月1日のメーデー(働く者の祭典)の由来
- L3. 意外にできそう：地球にやさしい発明品
  - ・手軽に使える太陽光を利用した調理器具
- L4. ブラジル：距離は遠いが心は近い
  - ・地域や団体のチームで競うリオのカーニバル
- L5. 目で伝えるコミュニケーション：スポーツ編
  - ・目隠しでおこなうブラインドサッカー
- L6. エレベーターで宇宙まで行ける可能性
  - ・探査衛星「はやぶさ」が成功した理由
- L7. ZARD：歌がくれた勇気と希望そして絆
  - ・マイケル・ジャクソンのHeal the World
- L8. 言語接触：ことばの出遣いは文化の出遣い
  - ・ハワイのピジンイングリッシュの例
- L9. チャップリンの喜劇の裏に青春時代の苦悩
  - ・映画『独裁者』の最終場面の名演説
- L10. 日本建築の不思議：地震でも倒れない五重塔
  - ・4,000年以上の歴史に耐えているピラミッド

以上がⅠとⅡの本課とOPですが、これに、Reading (物語・短編小説の読み物、以下R) として、以下の順でⅠに1つ、Ⅱに2つが加わります。

- Ⅰ - R 不穏な動きの二人の男が女性銀行員を…
- Ⅱ - R1 飼い猫が宇宙人と会話を驚くべき内容
- Ⅱ - R2 1通の手紙から生じた恋人たちの運命

### 3. Ⅲの題材内容

Ⅲは大別して3つのUnitごとになります。Unit 1では、リーディングスキル(以下、RS1,RS2,RS3,…)の区分けで11領域18種類の題材を取り上げています。領域と種類の数が11と18というように合っていないのは、RS5以降では[Get]と[Try]の2つに分けてそれぞれ別の題材にしているからです。

リーディングスキルについては、すでにⅠとⅡで導入しているのですが、このⅢはそのうちの主なものをスパイラル方式で確認する位置づけです。その際、まず、[Get]で本文を使いながらリーディングスキルを確認します。そして、[Try]でこれを練習するという二段方式になっています。この二段方式をRSの途中のRS5から取り上げているので、11領域18種類の題材となります。

#### [Unit 1]

- RS1. 日英語の擬態語・擬声語の違いに驚く
  - RS2. ブータンの「国民総幸福度」を考える
  - RS3. 9月21日の世界平和デーの由来
  - RS4. アラビア書道と日本の書道との違い
  - RS5. 薬をあてにしない「笑い治療師」のモットー  
ジャンケンに勝つ方法は人間の心理の研究
  - RS6. 東京のど真ん中にタヌキが住んでいる！  
スウェーデンのLanguage Caféの日替わり言語
  - RS7. 高架鉄道跡に造られた長〜い「ハイライン公園」  
次々と破られる100メートル徒競走の記録
  - RS8. 若者達が使っている「メール言語」の英語版  
果物や野菜を生産する植物工場の長短
  - RS9. 「隣人の日」が広まれば世界は平和になる  
借り自転車を利用すれば一挙兩得：北歐編
  - RS10. 葛飾北斎に倣った「エッフェル塔三十六景」  
栽培不可能な「青いバラ」の実現の喜びと不安
  - RS11. 〈広告〉の英語一市のテニスクラブ入会の情報  
〈広告〉の英語—「京都一日観光」の料金と見所
- Unit 2と3は、通しのLesson番号を使っています。

#### [Unit 2]

- L1. 英国でみかける「細長いボート」の役割
- L2. 左手のみのピアニスト：苦悩の末の誕生
- L3. 山中教授のiPS(人工多能性幹)細胞のしくみ
- L4. 日本人のように風呂好きだった古代ローマ人
- L5. 「閏年」でなく「閏週」がある暦
- L6. [ディベート] 電子書籍 vs. 紙の本
- L7. 世界中こんなに食べられているそば粉
- L8. 急減しているスズメやミツバチからの警告

#### [UNIT 3]

- L9. アウンサンスーチー：民主主義と平和のために
- L10. 人間の記憶力増強のための5つの方法

- L11. [ディベート] 選挙権は18歳から与えるべし
- L12. 現代社会の諸相にみる「一瞬」の重み
- L13. 情報化社会に不可欠なメディア・リテラシー
- L14. Englishes：世界で使われているさまざまな英語
- Ⅲ - R1 3時限目に教室の窓に出る人の影は…
- Ⅲ - R2 2匹のモルモットの荷造り運送の騒動

以上、MY WAY English Communicationシリーズの題材内容をすべて取り上げてみましたが、通覧しますと、以下のような特徴も浮き出てきます。

まず、その数です。ⅠからⅢまでを合わせますと、21 + 22 + 32で合計75編の題材を揃えたことになります。この数は他社の教科書のいずれと比べても多いと思います。次に、分野やテーマを大別しますと、順不同ですが、ことば、平和、環境、共生、文化(自文化・異文化)、社会(地域・国際)、人生(生き方)、人間(若者・女性)、芸術、健康、科学技術、音楽、スポーツ、娯楽、などさまざまな領域や分野にわたっています。

### おわりに

最後に、本文への思いと工夫に関して補足させていただきます。何事も最初と最後が肝心です。本MY WAYシリーズの、あるいは各Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの題材のメッセージが、最初と最後の文に如実に表れていれば、それだけ生徒の心に残ります。以下は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの最初の課の冒頭の文と最後の課の結末の文です。

- Ⅰ：Everyone has a name. …… A *norishiro* (= freedom of mind) life is fun!
- Ⅱ：We have a lot of ways to communicate. …… It is the younger generation that can keep the traditions alive.
- Ⅲ：Each language has its own onomatopoeia. …… Be confident in your English and use it to communicate with people in the world.

ご覧のように、本シリーズ全体では、冒頭の名前論で生徒の個性やアイデンティティーを喚起し、結末で英語に自信をもって世界の人々と交流しようと呼びかけています。これは各Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、さらには各課やセクションの最初と最後の文にも当てはまります。このようなメッセージへの思いと文章作成上の工夫がMY WAYの編集方針の根底にあります。